

貝殻表面にフジツボ類と石灰藻が着生したハナマルユキダカラガイ の生貝 (軟体動物門, 中腹足目, タカラガイ科)

久保田 信*・山口 寿之**

Shin KUBOTA, Toshiyuki YAMAGUCHI: Living *Ravitronea caputserpentis* on which shell surface barnacle and calcareous algae attach (Mollusca, Mesogastropoda, Cypraeidae)

和歌山県白浜町番所崎周辺海域にはハナマルユキダカラガイ *Ravitronea caputserpentis* (LINNAEUS) が普通に見られるが、タカラガイ類としては異例に貝殻表面にフジツボ類あるいは石灰藻が付着している2個体を報告した(久保田, 1997)。その後も番所崎の潮間帯岩礁部より石灰藻類が付着したハナマルユキダカラガイ生貝数個体を発見したが、今回、このような標本に加えて、同海域産ハナマルユキダカラガイ生貝にフジツボ類と石灰藻が同時に着生した希少個体を報告する。

標本1 (図1)

付着生物 貝殻背面の50%以上の部分に石灰藻が着生すると同時に貝殻背面頂端部付近に1個体の小形のサンカクフジツボ *Balanus trigonus* DARWIN (死亡個体) が着生

採集場所 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海の塔島岩礁
水深 潮間帯

採集年月日 1998年7月10日

その他 上記の個体と同時に採集した他の3個体(生貝)には、石灰藻のみが貝殻背面部に付着

考 察

サンカクフジツボは直径1.5cm程の大きさである(山口, 1995)が、本個体は小形で、また色彩も赤味が強い。一見すると、採集場所をはじめ田辺湾周辺海域潮間帯に普通に見られるオオアカフジツボ *Megabalanus volcano* (PILSBRY) (原田・小松, 1995参照)の幼体に一致する形質もあった。一方、サンカクフジツボは田辺湾周辺海域潮間帯ではあまり見られないが、特殊な基質と推察されるマガキガイ *Conomurex luchuanus* (LIN-

NAEUS)の貝殻上に着生する例がごく最近知られた(久保田他, 未発表データ)ことから、今後、様々な軟体動物の貝殻上から発見されてくる可能性がある。一般に、軟体動物は貝殻上に付着生物が成長しないよう忌避物質を出して防御しているが、今回のような例はそのような機構になんらかの異常が発生した結果かもしれない。

参 考 文 献

- 原田英司・小松 結. 1995: 田辺湾域における潮間帯岩礁性動物の分布. 瀬戸臨海実験所年報, 8, 24-34.
久保田信. 1997: 貝殻表面にフジツボ類あるいは石灰藻が付着した生きたハナマルユキダカラガイ (軟体動物門, 中腹足目, タカラガイ科). 南紀生物, 39(2), 125-126.
山口寿之. 1995: in 西村三郎編著, 原色検索日本海岸動物図鑑 [II] (初版). 130. 保育社, 大阪.

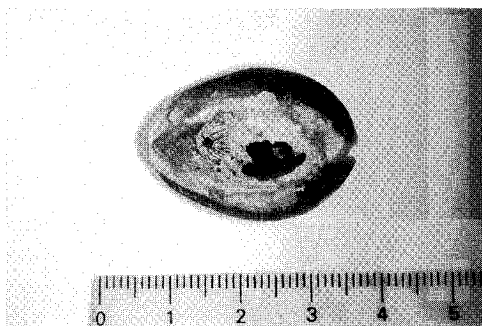


図1 サンカクフジツボおよび石灰藻が着生したハナマルユキダカラガイの生貝 (和歌山県白浜産)

Fig. 1 Living *Ravitronea caputserpentis* on which shell surface *Balanus trigonus* and calcareous algae attach (collected at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan).

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

** 千葉大学理学部地球科学教室 (〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)
Department of Earth Sciences, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage, Chiba 263-8522, Japan